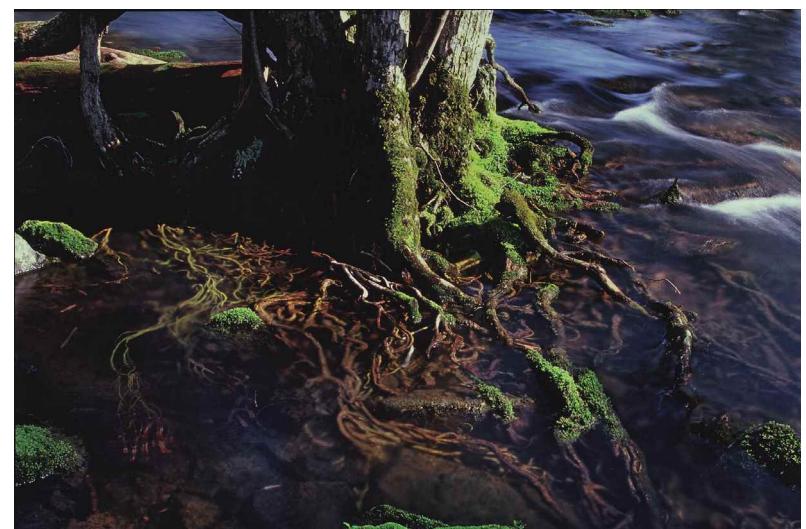


副会長賞／気分最高 The Best Feeling
(2015年・小野 久子)



伊藤園特別賞／清流探訪 Searching for a Clear Stream
(2015年・増崎 正彦)



フジカラー賞／耐え生きる Enduring
(2014年・山下 一男)



会長賞（ジュニア）／水と遊ぶ子ども
Child Playing with the Water
(2013年・大関直華)



カメラのニシネ賞／湯川の流れ The Flow of Yukawa River
(2014年・伊勢村清)



栃木二コン賞／清流に遊ぶ Play in the Clear Stream
(2015年・高山芳枝)



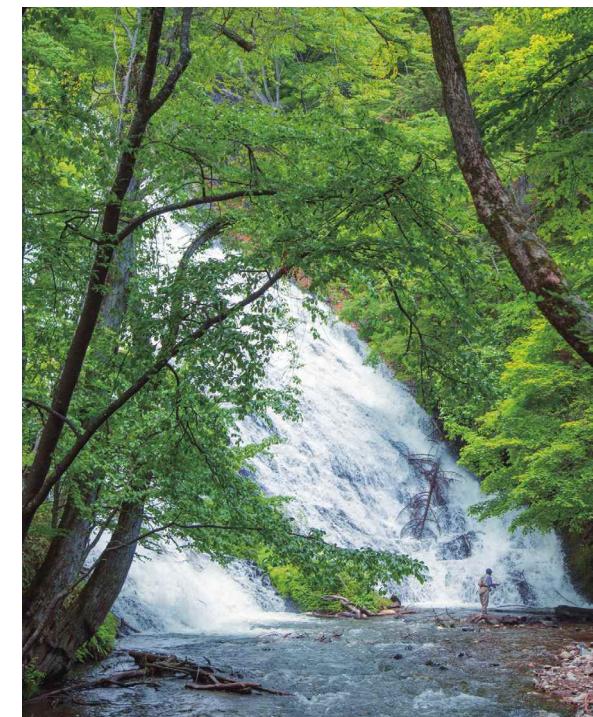
日光自然博物館賞／清流に咲く
(2015年・川田 武男)



副会長賞(ジュニア)／おさかなさん Mr.Fish
(2014年・森田 千晶)



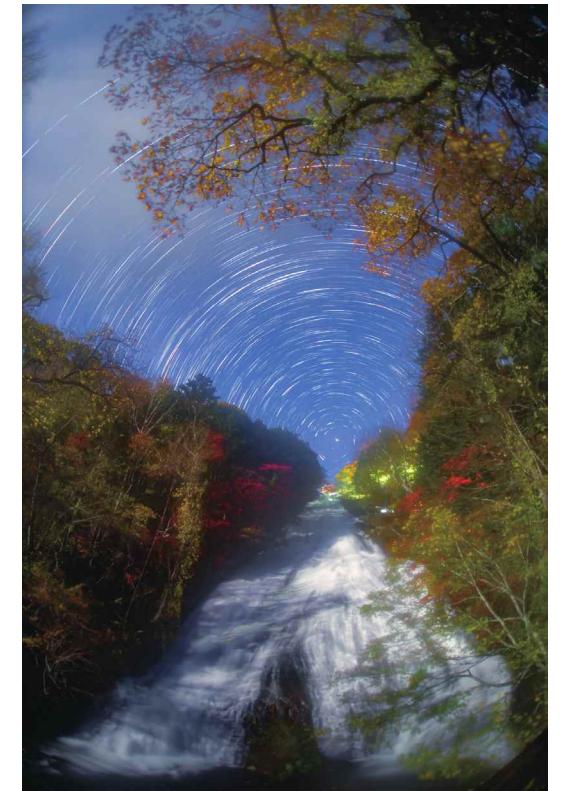
栃木ニコン賞／錦秋の湯川 Autumn Tapestry at Yukawa
(2018年・福原 勝宏)



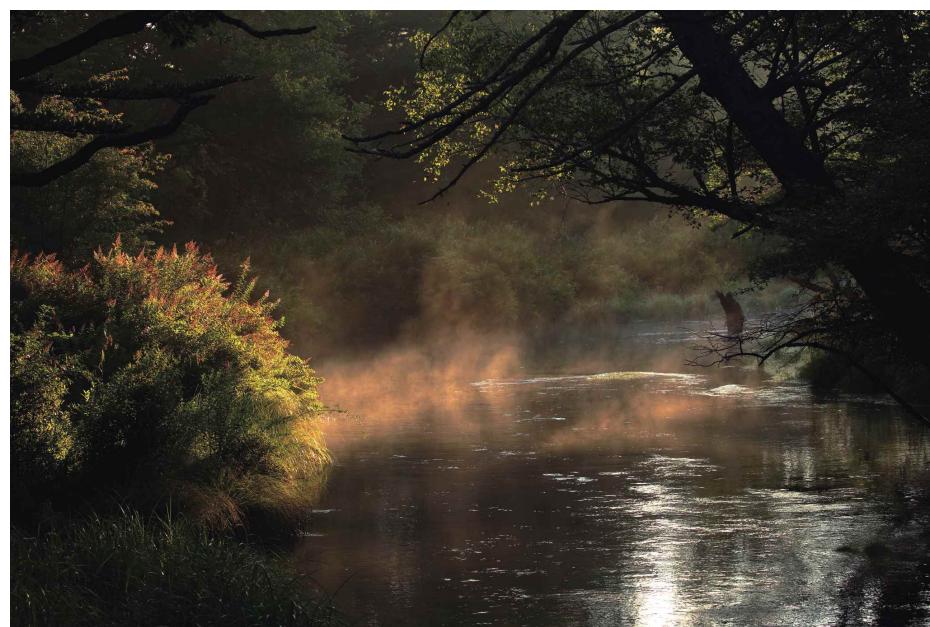
栃木ニコン賞／緑葉に囲まれた湯滝
Yutaki Falls Surrounded by Green Leaves
(2014年・萩野矢 幸子)



副会長賞／川面染められて
Coloring the River Surface
(2016年・沼尾一幸)



サトーカメラ賞／時の流れ The Flow of Time
(2018年・真貝 隆二)



栃木県知事特別賞／静寂の朝霧
Serene Morning Mist
(2017年・千代 隆之介)



日光市長特別賞／水辺の秋
The Waterside in Autumn
(2013年・渡邊 洋)



日光市長特別賞／
絶景に踊る湯滝口
Yutaki Falls Dancing with a Backdrop
(2016年・長谷川 一夫)



・戦場ヶ原

戦場ヶ原は男体山の噴火によりできた「せき止め湖」に、土砂や火山の噴出物が徐々に埋まり形成された湿原です。戦場ヶ原周辺の森林は、温帯落葉樹林帯と呼ばれ、主にブナ、ミズナラ、シラカンバなどの広葉樹と針葉樹のウラジロモミが生育しています。貴重な高山植物も数多く生育しており、まさに植物の宝庫となっています。

・小田代原

小田代原は湿原から草原への遷移過程にある希少な湿原です。アヤメ、ノハナショウブ、ノアザミ、ホザキシモツケ、ウマノアシガタ、ニッコウアザミなどが生育し、四季を通じて原全体は変化に富み、秋は、草原が縞模様の美しい「草紅葉」となり、いろいろ豊かな風景となります。

草原の中央に見られるシラカンバは、別名「貴婦人」と呼ばれ、小田代原のシンボルとして親しまれています。

・小田代湖

小田代原では数年に一度、長雨や大雨の後に幻の湖「小田代湖」が現れることがあります。近年では平成23(2011)、平成30(2018)、令和元(2019)年に出現しています。

・泉門池（いずみやどいけ）

戦場ヶ原の西端に位置する湧水池で「センモンイケ」とも呼ばれます。「マガモ」など水鳥の姿を見ることができます。



栃木二コン賞／朝日を浴びて Bathed in the Morning Sun
〈2018年・寺澤 俊博〉



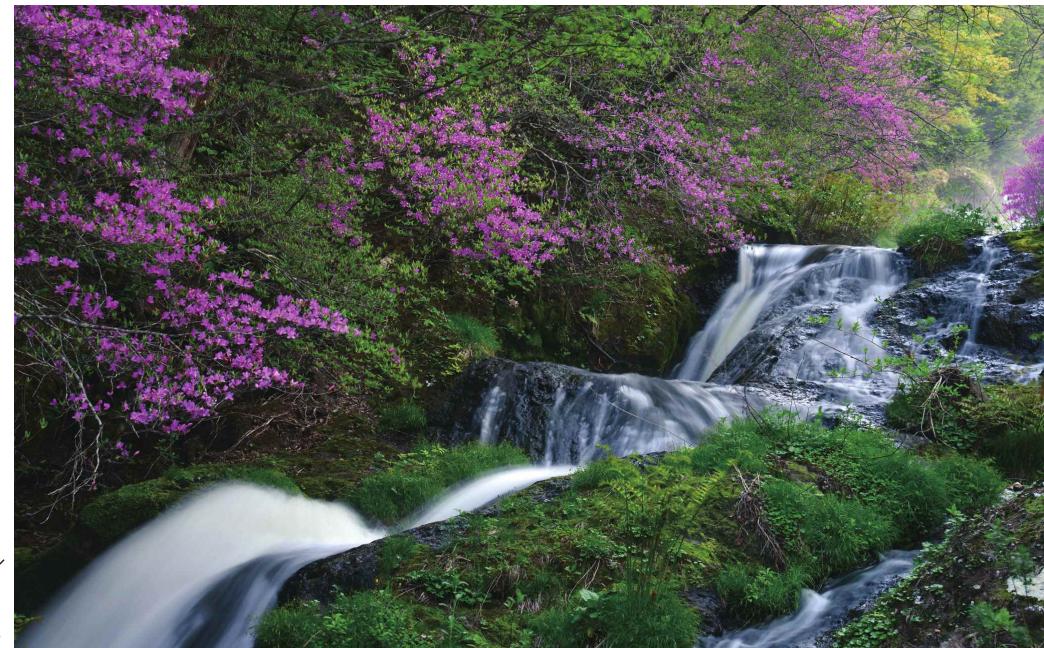
副会長賞（ジュニア）／あきのかわ Autumn River
〈2013年・齋藤 晶 撮影地／泉門池〉

・竜頭滝

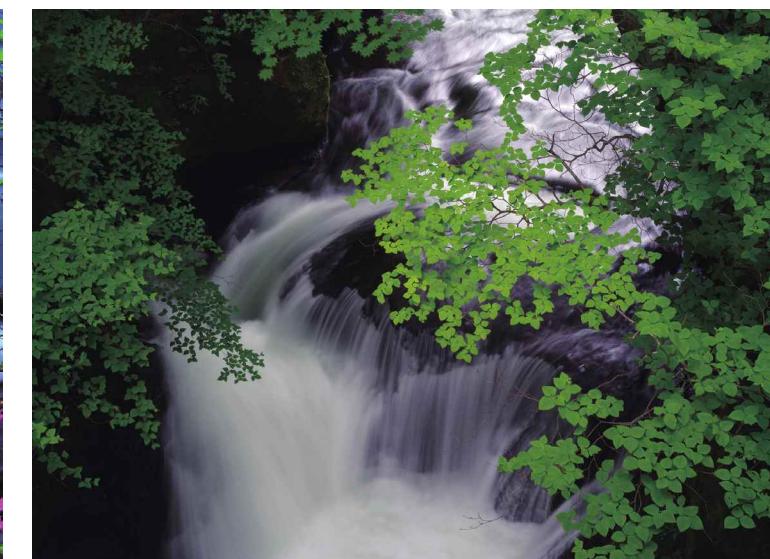
戦場ヶ原と中禅寺湖との間の湯川にかかる全長210m、落差約60mのナメ型の滝です。水流に削られた岩の中に竜の頭に似ているものがあったことから名付けられたといわれます。また、湯滝、華厳滝とともに奥日光三名瀑といわれています。



日光市長特別賞／清流彩々 Colors on a Clear Stream
(2018年・江草 保幸)

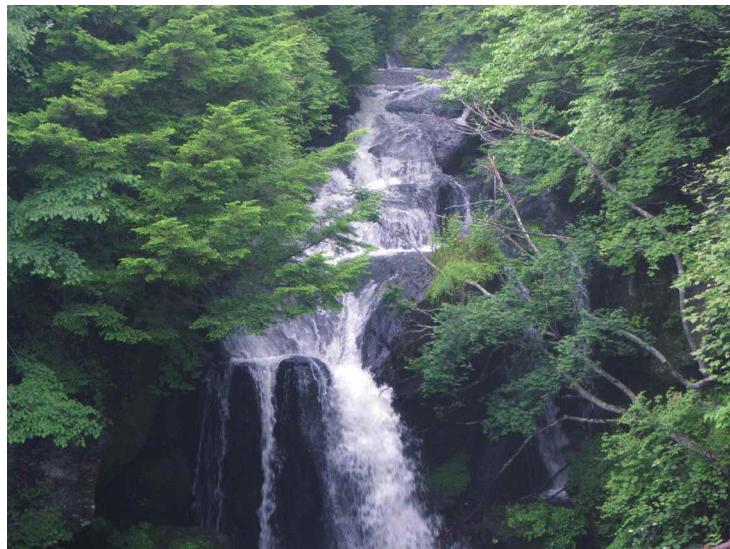


栃木県知事特別賞／
清流 A Clear Stream
(2016年・高橋 由雄)

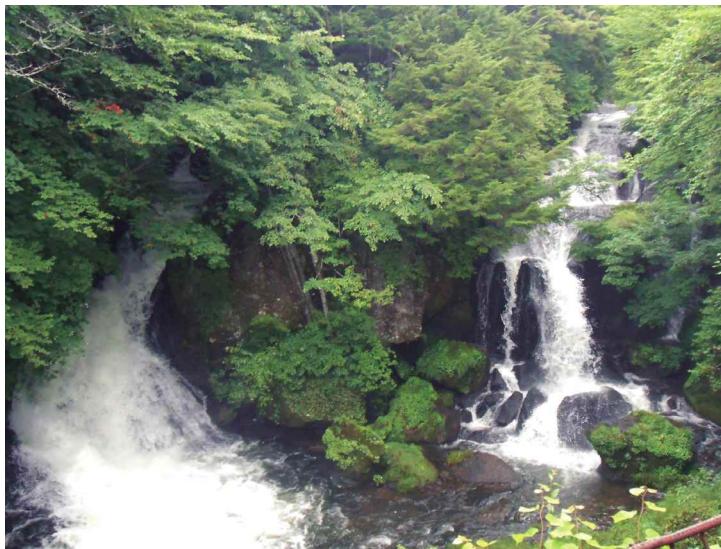


カメラのニシネ賞／美緑 Beautiful Greenery
(2015年・尾内 泰)

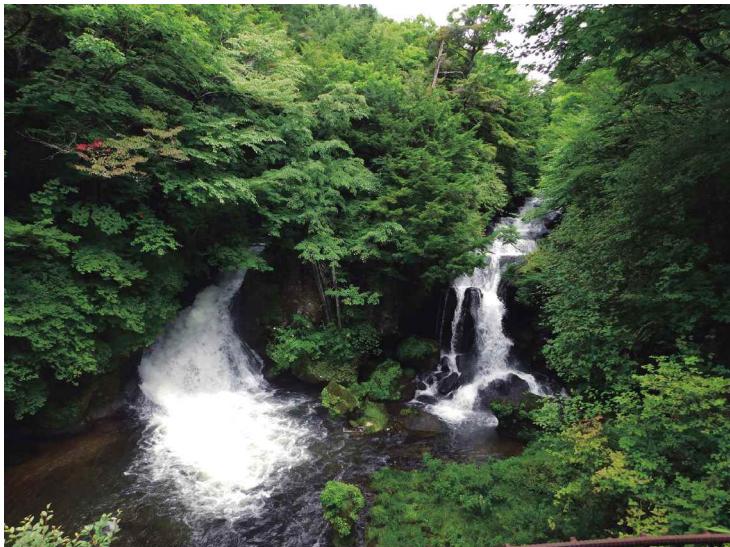
カメラのニシネ賞／春の波動 Spring Waves
(2018年・久松 茂)



とちまるくん奨励賞／
ほとばしる水しぶき The Surging Spray
(2015年・毛塙 崇太)



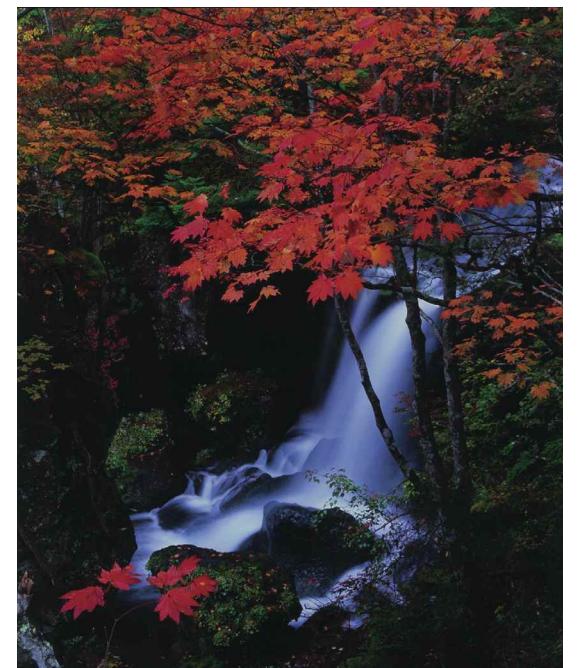
日光仮面奨励賞／滝 Waterfall
(2019年・梅原 俊太)



とちまるくん奨励賞／
初夏の竜頭 Ryuza at the Beginning of Summer
(2017年・岩井 優志)



カメラのニシネ賞(ジュニア)／
きれいな風景 Beautiful Scenery
(2013年・村瀬 航生)



日光自然博物館賞／
滝の装い The Waterfall's Attire
(2014年・赤石 恵三)



日光自然博物館賞／
目覚の朝 Waking Morning
(2017年・海老根 登)



副会長賞(ジュニア)／
森川湖山 The Great Outdoors
(2014年・中村 有伴)



栃木二コン賞／
朝日の映える紅葉 Autumn Leaves Shining in the Morning Sun
(2017年・渋谷 京一)



栃木二コン賞／竜躍る Dragons Dance
(2019年・針谷 喜一郎)



カメラのニシネ賞／冬の竜神 Dragon God in Winter
(2013年・海老根 登)



日光市長特別賞／秋色の流れ The Flow of Autumn Beauty
(2016年・番場 享)



・中禅寺湖

中禅寺湖は男体山の噴火によりできた天然の「せき止め湖」で、湖面の標高は1,269mと人造湖を除く4km以上の湖では日本一の水面標高を誇ります。また、水深が平均95m（最大163m）と深いため、面積では約15倍もある茨城県の霞ヶ浦よりも貯水量が多くなっています。観光や釣りに利用されるほか、湖水は上水道としても利用されています。

水温躍層（すいおんやくそう）

深さが10m以上ある湖の場合、気温の高い季節には表面の水（表層水）の温度が気温に近くなり、少し深くなると水温が急に低くなる層ができ、これを「水温躍層」と呼びます。

水温躍層ができると、表層水と底の水（底層水）は混ざらないため、底層水に溶けている酸素は次第に減少していきます。湖水の酸素の量が減ると、湖底に堆積した泥の中から栄養塩類が再び湖水に溶け出し、富栄養化の一因となります。気温が低くなると、表層水の温度は次第に低下し、それに伴って水温躍層の位置は低下していき、やがてなくなり、表層水と底層水が対流するようになり、低酸素状態も解消されます。



日光市長特別賞／湖畔の春 Spring on the Lakeside
(2019年・笠原 清一)

・イタリア大使館別荘記念公園

園内の建物は、昭和3（1928）年にイタリア大使館別荘として建てられ平成9（1997）年まで歴代のイタリア大使が実際に使用していたものです。別荘を公園として整備し、平成12（2000）年から一般公開され、中禅寺湖畔の豊かな自然や、国際避暑地としての歴史にふれることができます。



・英国大使館別荘記念公園

園内の建物は、英國の外交官アーネスト・サトウの個人別荘として明治29（1896）年に建てられ、その後、英國大使館別荘として平成20（2008）年まで使用されました。別荘として長年使われてきた姿に復元し、平成28（2016）年から一般公開されています。2階の広場からは中禅寺湖の絵のような絶景を望むことができます。



・中禅寺湖畔ボートハウス

中禅寺湖畔ボートハウスは、米国の水辺リゾート地の建物をモデルに、戦後まもなく日米親善交流施設として建設されたものです。平成14（2002）年に建設当時の姿に復元しています。ベルギー王国大使館別荘のボートなどの展示を見ることができます。



・千手ヶ浜

中禅寺湖の西の端にある南北約2kmにわたる浜で、周辺の林にはミズナラやハルニレなどの巨木が見られ、クリンソウが6月頃咲き誇ります。